

# 移動表現の類型論超入門

## 一通言語的観点から見えてくるもの

@voice0726

Oct. 22, 2013

TwifULL 札幌言語学ミーティング

## 1 はじめに

ほんじつのおしながき

- 移動表現の類型論の概説
- ケーススタディ（使役移動表現）

## 2 移動表現の類型論概説

### 2.1 なぜ「移動表現」の「類型論」なのか

- 移動＝我々人間の基本的な経験の一つ  
…（おそらく）あらゆる言語が移動を表現するための言語手段を持つが、その表現手段は多種多様
- 移動＝空間事象  
… 空間と言語（および認知）との関連（Levinson (2003) の空間参照枠の問題など、井上 (1998) も参照）
- 類型論  
… 言語に潜む普遍性と多様性を明らかにする試み

→ 空間認知・イベントの言語化（概念化）の普遍性と多様性を明らかにする試みとして位置づけることができる。

## 2.2 イベント統合の類型論 (Talmy 1991, 2000)

### 2.2.1 理論的枠組

着眼点：移動を構成する各意味要素はどのようにエンコードされるか<sup>1</sup>

- (1) Motion 移動の概念それ自体  
Figure 移動する物体  
Path 移動物が描く軌跡  
Ground 移動を相対的に位置づける参照物  
Co-event 移動に付随して起きるイベント。Manner, Cause など
  
- (2) a. The bottle floated into the cave.  
Figure Motion+Manner Path Ground  
b. The pencil blew off the table.  
Figure Motion+Cause Path Ground

動詞枠付言語 (Verb-framed language) vs. 付随要素枠付言語 (Satellite-framed language)

動詞枠付言語 … 移動の経路 (Path) を主動詞で表す言語 → (3a)

付随要素枠付言語 … 移動の経路を付随要素 (不変化詞や前置詞など)<sup>2</sup>と呼ばれる要素で表す言語 → (3b)

- (3) a. La botella **entró** a la cueva (flotando).  
the bottle **MOVED-in** to the cave (floating)  
'The bottle floated into the cave.' (Spanish: Talmy 2000: 49)
  
- b. The bottle floated **into** the cave.

動詞枠付言語 … フランス語, スペイン語, イタリア語, 日本語, 韓国語, トルコ語 など

付随要素枠付言語 … 英語, ドイツ語, 中国語, ハンガリー語, ロシア語 など

### 2.2.2 英語と日本語の移動表現

#### ■英語

付随要素枠付言語に分類される。経路は付随要素によって表され、主動詞は移動の様態・移

<sup>1</sup> イベント統合の類型論は、Talmy (1985) の語彙化の類型論から発展したものであるが、類型化の基準が厳密には異なることに注意が必要である。また、イベント統合の類型論は移動事象以外にも状態変化事象など他の事象も扱っているが、本発表では移動事象のみ扱うことにする。他のイベントに関しては Talmy (1991, 2000) を参照されたい。

<sup>2</sup> より厳密には「動詞と姉妹の位置にあり、それを修飾する要素」と定義されている (Talmy 2000: 102)。なお、Talmy は前置詞と付随要素を区別する立場をとるが (Talmy 2000: 106)、便宜上ここでは前置詞を含めて付随要素と呼ぶことにする。なお、Matsumoto (2003) は、移動の経路が付随要素・前置詞に加え、さらに格標識や位置名詞などにも現れることから、これらをまとめて非主要部とし、主要部と非主要部の対立という観点から類型化すべきだとしている。

動の原因などを表す。

- (4) a. The bottle floated into the cave. (Manner)
- b. The pencil blew off the table. (Cause)

様態動詞の豊富なレパートリー<sup>3</sup>

- (5) *amble, bowl, canter, clamber, climb, crawl, creep, dance, dash, flit, fly, gallop, glide, hasten, hobble, hop, hurry, inch, jog, jump, leap, limp, lumber, lurch, march, meander, mosey, nip, pad, parade, plod, prowl, race, ramble, roam, rove, run, rush, ...* (松本 1997: 131)

英語で、経路が動詞で表わされることが全くないというわけではない。

- (6) John **passed** the building.

経路動詞のレパートリー (ただし、ラテン語由来のものが多い)

- (7) *depart, leave, arrive, reach, enter, exit, cross, pass, pierce, traverse, escape, bypass*  
(松本 1997: 135)

## ■日本語

動詞枠付言語に分類される。経路が主動詞によって表され、移動の様態・原因などは動詞のテ形、ナガラ形などで表される。

- (8) a. 彼は {意気揚々と/車で/歩いて} 山の頂上まで登った。
- b. 彼は {意気揚々と/車で/歩いて} 川を渡った。 (松本 1997: 141)

日本語の様態動詞は英語ほどは多くはなく、また着点句を取りづらいという性質を持つ。

- (9) 歩く, 走る, 駆ける, 這う, 滑る, 転がる, ... (松本 1997: 143)
- (10) a. ジョンは駅 {??に/まで/へと} 走った。
- b. ジョンは北 (の方) {に/へ} 走った。 (松本 1997: 143)

## 2.3 主な研究手法

### ■小説作品およびその翻訳の対照

Slobin (1996) … 英語とスペイン語の小説, 及びそれらのスペイン語訳・英語訳の対照。

Ohara (2002) … 日本語と英語の小説及びそれらの翻訳版の対照。

守田 (2008) … 「ノルウェイの森」の日本語版とフランス語版の対照。

→ (実験などに比して) 比較的取り組みやすいが、翻訳者の癖などノイズが入る可能性がある。翻訳文がその言語の特性を反映しているとは限らない。

---

<sup>3</sup>ただし、Matsumoto (2003) は (様態 or 経路) 動詞のレパートリーの大小が必ずしも Talmy の類型と一致するものではないと指摘している。実際に、動詞枠付言語とされるフランス語は、移動様態動詞のレパートリーが豊富であることが述べられている。

## ■発話を引き出す実験

Berman and Slobin (1994) … Frog story と呼ばれる文字のない絵本を利用した実験。

Matsumoto (2011) … 移動事象のビデオを見てもらい、発話を引き出す。

→ 同じ刺激に基づいた発話の言語間比較が可能。ただし、選定した刺激映像が表す事象のみしか考察できない。

## ■大規模コーパス

Publish されてるものはない…？

→ 扱う動詞は限定されるが、その動詞がその言語の中でどれだけ利用されてるかを数量的に出すことができる。Talmy タイポロジーは「主要な表現パターンはなにか」という観点で言語を分類しているため、数量的にデータを見ることは非常に有益であり、今後の研究が期待される。

## 2.4 その後の発展

### 2.4.1 第3のタイプ

Zlatev and Yangkland (2004) … Equipollently-framed language

(11) chán dǎn khâm thanǒn khâw paj naj sǎn

I walk cross road enter go in park

‘I walked across the road and into the park.’

(Zlatev and Yangkland 2004: 160)

→ タイ語の場合、動詞の連続 (Serial Verb Construction) によって移動の様態と経路が両方共動詞で表される。形態・統語的にはどちらが主でどちらが副かを定めることができない。

### 2.4.2 言語内での類型的変化

イベントのタイプや経路の種類に応じて表現パターンが変化する言語がある。

## ■経路の性質によるもの

Aske (1989)

(12) La botella flotó hacia la cueva.

the bottle floated toward the cave

‘The bottle floated toward the cave.’

→ 様態動詞＋方向句で英語と類似したパターン。

## ■イベントの性質によるもの

Choi and Bowerman (1991), Pardeshi (2011), Matsumoto (2011) など … 自律移動と使役移動で表現パターンが異なる。

- (13) a. aamhii tsaala-t bhaaat-nepaaL-cii simaa **olaanDali**.  
 we walk-PTCP India-Nepal-of border **crossed**  
 ‘We crossed the India-Nepal border on foot.’
- b. raam-ne paTkan khishaa-t rumaal Thevlaa.  
 Ram-ERG quickly pocket-**in** handkerchief put  
 ‘Ram quickly put the handkerchief in his pocket.’ (Pardeshi 2011)

## 2.5 今後の研究の方向性

移動表現の表現パターンの類型として Talmy は 2 つのタイプ (i.e. 動詞粹付 vs. 付随要素粹付) を提案したが、実際のデータを見ると、言語の表現パターンは Talmy の想定する以上に多様。そこで次のような研究課題が考えられる。

- どのような場合に (or 要因で) 表現パターンが変化するか? (経路の性質, イベントの性質, etc.)
- その場合, 条件に通言語的な傾向はあるか?

## 3 ケーススタディ

### 3.1 目的

自律移動と使役移動のパターンが異なる場合がある。では使役移動の表現パターンはどうなっているのか? 使役移動表現のうち putting event<sup>4</sup> (see also Kopecka and Narasimhan 2012) を取り上げて表現のパターンを言語間比較してみる。

### 3.2 手法

イラストを呈示し発話を引き出す方法を採用 (Bowerman and Choi (2001) の手法に基づく)。英語・オランダ語・ロシア語・中国語・日本語・韓国語・スペイン語母語話者 5 名ずつ。

### 3.3 結果

#### 3.3.1 Talmy の類型とは異なるパターン

PUT ON と PUT IN の表現の通言語比較→2つのパターンに分けられる。

<sup>4</sup>使役移動事象のうち, putting event と限定するのは, 使役移動のイベントの種類に応じて表現パターンが変わる場合があるからである (松本 近刊)。松本は使役移動事象を 3 つのタイプに分類している。その一つのタイプが putting event を含むものである。

- ON の場合と IN の場合で共通の動詞を用い、前置詞等で ON と IN を区別する言語
- ON と IN の場合で異なる動詞を使う言語

ON と IN を動詞以外で区別する言語

- (14) I put the apple {**on** the table / **in** the bowl}.
- (15) wǒ bǎ píngguǒ {fàng-dào zhuōzi-**shàng** / fàng-**jìn** wǎn-**lǐ**}. (Chinese)  
I OM apple {put-arrive table-**on** / put-**enter** bowl-**inside**}
- (16) Ik leg de appel {**op** de tafel / **in** de kom}. (Dutch)  
I lay the apple {**on** the table / **in** the bowl}
- (17) Ja po-loži-l-a jabloko {**na** stol / **v** misk-u}. (Russian)  
I PFV-lay-FEM-PST apple.ACC {**on** table.ACC / **in** bowl-ACC}

ON と IN を動詞で区別する言語

- (18) リンゴを{机の上に置く / ボウルに入れる}。
- (19) sakwa-lul {theyipul-ey **noh**-ta / kulus-ey **neh**-ta}. (Korean)  
apple-ACC {table-LOC **put.on**-DEC / bowl-LOC **put.in**-DEC}
- (20) **Pongo** la manzana en la mesa / **meto** la manzana en el frutero. (Spanish)  
**put.on** the apple LOC the table / **put.in** the apple LOC the bowl

表 1：ON と IN を動詞以外で区別する言語

Language	PUT ON		PUT IN	
	Verb	Others	Verb	Others
English	<i>put</i>	<i>on</i>	<i>put</i>	<i>in</i>
Dutch	<i>leggen</i>	<i>op</i>	<i>leggen</i>	<i>in</i>
Chinese	<i>fàng</i>	<i>shàng</i>	<i>fàng</i>	<i>jìn/lǐ</i>
Russian	<i>položít'</i>	<i>na</i>	<i>položít'</i>	<i>v</i>

表 2：ON と IN を動詞で区別する言語

Language	PUT ON		PUT IN	
	Verb	Others	Verb	Others
Japanese	<i>oku</i>	<i>-ni</i>	<i>ireru</i>	<i>-ni</i>
Korean	<i>nohta</i>	<i>-ey</i>	<i>nehta</i>	<i>-ey</i>
Spanish	<i>poner</i>	<i>en</i>	<i>meter</i>	<i>en</i>

表面的には、Talmy の類型の予想通りに見えるが…

疑問：put も経路動詞では…？

意味的に考えると、「着点への移動を表す使役移動」<sup>5</sup> (cf. take)。着点への移動を表す自律移動動詞 arrive なども経路動詞として扱われている以上、put も経路動詞として扱うべき。

では何が違うか？

→ 移動後にとりうる Ground との空間位置関係<sup>6</sup>を動詞で表すか、付随要素で表すか。

- 空間位置関係を付随要素で表す … 英語、オランダ語、ロシア語、中国語
- 空間位置関係を動詞で表す … 日本語、韓国語、スペイン語

### 3.3.2 言語内の表現パターンの変化

ただし、英語型の言語のなかでも、時に日本語型（移動後の空間位置関係が動詞でも表される）のような振る舞いを見せる場合がある。

(21) Ik **stop** het boek **in** de hoes.

I insert the book in the cover

‘I put the book in the book cover.’

→ *stoppen* 自体が IN の意味を持つ動詞<sup>7</sup>。

どういう時にこのようなパターンになるか？

- ポスターを貼る。ブックケースに本を入れる。ビデオテープをケースに入れる。
- このような場合、付随要素に加えて動詞で移動後の空間位置関係を表す。  
(例えば中国語の場合、*tiē* ‘paste’, や *‘sāi* ‘stuff into’ を用いる)
- 経路的には ON/IN のイベントでも、更に特定のイベント  
e.g., 貼る … ON した後に付着という結果状態を伴う
- より特定のイベントを表す手段として、経路の意味を含んだより特定の動詞を持ち、それをを用いる。

英語は上記のような場合でも一貫して *put* を用いる … 言語によって、どの場合に経路の意味を含んだ動詞を使うかが異なる。

英語の名詞転換動詞 (denominal verb) … 特定の移動物や経路, Ground を表す使役移動動詞

(22) *bag, bank, beach, bed, bottle, box, can, case, cage* …

松本 (1997: 165)

*bag* … Path は IN, Ground が “bag”

<sup>5</sup>英語の *put* に関して同様の分析をしているものとして、Jackendoff (1990: 79–80), 松本 (1997: 161) がある。

<sup>6</sup>なお、Talmy の用語ではこれを Conformation と呼ぶ (Talmy 2000: 53)。つまり、上で見た類型は「Conformation をどの要素で表すか」の類型と理解することができる。

<sup>7</sup>*stoppen* の意味分析に関しては Lemmens (2006) が詳しい。

### 3.4 まとめと今後の課題

#### まとめ

- putting event の場合，経路というよりは，移動後の空間位置関係をどこで表すかという点で言語が異なる振る舞いを見せる
- 言語内でパターンが変化する場合…より特定の状況（付随要素だけでは描写しきれない）

#### 課題

- 言語数の問題。
- 動詞の意味記述の問題。
- イベントの特定性という基準をどう定義するか。

## 4 おわりに

- 「移動事象」という観点から，言語の表現パターン（言語化の方略）を通言語的に見してみる
- 一見言語は多様な振る舞いを見せるが，その中でちょっとした共通性を見出すことができる→楽しい（AA 略）
- 記述レベルでまだ研究が進んでない言語もあるので，皆さん是非移動族になりましょう

#### 略語一覧

ACC: accusative, DEC: declarative, ERG: ergative, FEM: feminine, LOC: locative, OM: object marker, PFV: perfective, PST: past, PTCP: participle

#### 参考文献

- Aske, Jon. 1989. Path predicates in English and Spanish: a closer look. In Kira Hall, Michael Meacham, and Richard Shapiro (eds.) *Proceedings of the Fifteenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*, 1–14. Berkeley, CA: Berkeley Linguistics Society.
- Berman, Ruth A. and Dan I. Slobin. 1994. *Relating Events in Narrative: A Crosslinguistic Developmental Study*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Bowerman, Melissa and Soonja Choi. 2001. Shaping meanings for language: universal and language-specific in the acquisition of spatial semantic categories. In Melissa Bowerman and Stephan C. Levinson (eds.) *Language acquisition and conceptual development*, 475–511. Cambridge: Cambridge University Press.
- Choi, Soonja and Mellissa Bowerman. 1991. Learning to express motion events in English and Korean: The influence of language-specific lexicalization patterns. *Cognition*, 41: 83–121.
- Jackendoff, Ray. 1990. *Semantic Structures*. Cambridge, MA: MIT Press.



- Kopecka, Anetta and Bhuvana Narasimhan. (eds.). 2012. *Events of Putting and Taking: A crosslinguistic perspective*. Amsterdam: John Benjamins.
- Lemmens, Maarten. 2006. Caused posture: Experiential patterns emerging from corpus research. In Stefan Gries and Anatol Stefanowitsch (eds.) *Corpora in Cognitive Linguistics. Corpus-Based Approaches to Syntax and Lexis*, 263–298. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Levinson, Stephan C.. 2003. *Space in Language and Cognition*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Matsumoto, Yo. 2003. Typologies of lexicalization patterns and event integration: Clarifications and reformulations. In Shuji Chiba et al. (ed.) *Empirical and Theoretical Investigations into Language: A Festschrift for Masaru Kajita*, 403–418. Tokyo: Kaitakusha.
- . 2011. Motion typology reconsidered. Presented at the 11th International Cognitive Linguistics Conference, Xi'an, China, July 11–17.
- Ohara, Kyoko H. 2002. Linguistic encodings of motion events in Japanese and English: A preliminary look. *Hiyoshi Review of English Studies*, 41: 122–153.
- Pardeshi, Prashant. 2011. Motion events in Marathi: Variation in the encoding of path and deixis. Presented at 11th International Cognitive Linguistics Conference, Xi'an, China, 11-17 July.
- Slobin, Dan I. 1996. Two Ways to Travel: Verbs of Motion in English and Spanish. In Masayoshi Shibatani and Sandra A. Thompson (eds.) *Grammatical constructions: Their form and meaning*, 195–219. Oxford: Clarendon Press.
- Talmy, Leonard. 1985. Lexicalization Patterns: Semantic in Lexical Forms. In *Language Typology and Syntactic Description III: Grammatical Categories and the Lexicon*, 57–149. Cambridge: Cambridge University Press.
- . 1991. Path to Realization: A Typology of Event Conflation. In *Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistic Society*, 480–519. Berkeley, CA: Berkeley Linguistic Society.
- . 2000. *Toward a Cognitive Semantics, Volume II: Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Zlatev, Jordan and Peerapat Yangkland. 2004. A third way to travel. The place of Thai in motion-event typology. In Sven Stromqvist and Ludo Verhoeven (eds.) *Relating Events in Narrative, Volume 2: Typological and Contextual Perspectives*, 159–190. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum.
- 松本曜. 1997. 「空間移動の言語表現とその拡張」中右実(編)『空間と移動の表現』, 125–230. 研究社出版.
- . 近刊. 「移動表現の類型に関する課題」松本曜(編)『移動表現の類型論と類型の一貫性』, くろしお出版.
- 守田貴弘. 2008. 「日本語とフランス語の空間移動表現—動詞枠付け言語と類型内の多様性」C. ラマール・大堀壽夫・守田貴弘(編)『空間移動の言語表現の類型論的研究 2』, 45–68. 東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば」研究報告書.
- 井上京子. 1998. 『もし「右」や「左」がなかったら—言語人類学への招待』. 大修館書店, 東京.

## 移動表現文献目録

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~yomatsum/resources/motionbiblio.html>